

開会の挨拶

福井大学理事・副学長
末 信 一 朗 氏

ただ今、ご紹介にあずかりました福井大学研究担当理事・副学長の末でございます。

今日、開会の挨拶を仰せつかりましたので、ごく簡単にご挨拶させていただきます。

最初に、年末のこのお忙しい中、天気はすごくいいのですが、コロナ禍の状況の中、皆様ご参加いただきましてありがとうございます。

今日のテーマ「DX時代の工学教育」ということですが、このDX、改めて定義するわけではないんですけど、本学の別キャンパスに行ったときにその先生方からデジタルトランスフォーメーションなのになぜXなんだということを聞かれまして、なるほどそういう疑問はやっぱり湧いてくるんだろうなと思いました。私なりに解釈したのは、X ですので **Exchange** とかそういうことで、これはAからBに変換されると、変わっていく。だから、**Exchange** によってAからBと、CからDというようにつくり変えていく、価値のあるものを創造していくといったようなことを示していると思います。こういう意味で、この工学教育にもDX化ということで、教育の中に新しい価値をつくり出していくといったようなことが今求められている状況だというふうに思っているわけです。

そういう中で、今日は文科省高等教育局専門教育課の課長補佐の奥井雅博様をお招きいたしまして、基調講演ということで「大学教育のデジタルライゼーション・イニシアティブ（スキームD）について」ということで、お話しいただきます。このスキームD、私も非常に興味あるところなんですけど、いろいろと詳しいお話を聞かせていただけるということで期待をしております。

また、本学の廣瀬教授、それから信州大学・新村先生、金沢大学・森先生、新潟大学・今村先生から各大学のDX教育への取組という形でのご紹介をいただけるということで、こちらのほうも各大学の新しいDX時代の最新の話をお聞かせいただけるのではないかと期待をしております。

本日残念ながら行事が重なりまして、本学のキャンパスにて学生センターの開所イベントというの

も併せて行われておりまして、別にまた文科省のほうからも担当の方をお招きしているというような状態で、いろいろと混線しているようなところなんですけれども、そういう中で皆様、お忙しい中ではありますが、ぜひこの「DX時代の工学教育」についても楽しんで聞いていただければというふうに思います。

以上、簡単ですが、私からのご挨拶とさせていただきます。

どうもありがとうございました。